
ゼルダの伝説 トワイライトプリンセス

エラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼルダの伝説 トワイライトプリンセス

【Nコード】

N7271T

【作者名】

エラ

【あらすじ】

捨てられたリンクは愛するミドナを求めて・・・。

数々の困難を乗り越えはたしてミドナにあうことができるのだろうか？

旅立ち

ゼルダの伝説 トワイライトプリンセス

Legend Of Zelda Twilight Princess

その後の話

あれから10年。どうしてもミドナに会いたいと思っていたリンクは影の世界へ行く方法を今までずっと探し回っていた。そして今日、やっとその方法を見つけたのだ。ミドナの写真を見つめながらリンクはぼそりと呟いた。

「ミドナ、待つてるよ。今すぐ会いに行くからな。」

そしてリンクはトアルの剣を持って家を飛び出た。リンクはエポナにまたがりハイラル平原を越え、ハイリア湖へ向かった。そして、土の中に埋めておいたハイリアの盾を掘り出した。さらに親子岩のほうまで泳いで、アイアンブーツを履いて沈んでいった。もちろんゾーラの服も着て。今は夜なので誰もいないはずだ。さつきも確認したしな。そう思いながら、リンクは親子岩の下のほうにトアルの剣を刺し、それにハイリアの盾を掛けた。リンクはそこから親子岩を見ていた。しばらくすると親子岩が爆発した。リンクはそれを確認するとトアルの剣と盾を装備しとりあえずアイアンブーツを脱いで浮上した。しかしなんとトビーがこちらを見ていたのだ。リンクは驚いた。さつき確認したはずなのに、と。俺がここにもぐった時に戻って来たのだらう。トビーは震えていた。以前、この地域がトワイライトになっていて、影の使者達を怖がっていた時のような間抜け顔をしている。おそらく、トビーがいるあの位置からはこの様子が丸見えだっただらう。もしもこんなことをしていたとばれれば俺のプライドが許さないだらう。しかたねえ。殺すとするか。ハイリア湖の人達に捕まっても困るしな。ククク。もう笑い声までミ

ドナと同じになっちまったな。そう思いながらリンクは泳いで、そしてトビーの前に歩み寄った。

「あ、あんた・・・何を・・・。」

「・・・フツ、なにも・・・。」

そう言いながらリンクはトアルの剣を出して

「してねーよ。」

と言ったと同時にその剣でトビーの足を刺した。トビーの足から血が飛び出てくる。

「ぐわああああああ。」

「黙れ。」

リンクはトビーの足に刺さった剣を抜いた。そしてその剣をトビーの首に突き付けて

「お前は、見ちゃいけねーものを見ちまったようだな。」

「ひい。・・・あ・・・あの・・・。」

「あ、あ、？」

「何も見ていません。だから殺さないでくれ。なあ、・・・お・・・お前さんはまだ若い。まだ27歳だったよな。これから結婚して、そして子供をつくって・・・。」

「ごちゃごちゃうるせーんだよ。」

「そしてその子が・・・お前さんの奥さんがこの人は殺人犯なんだってことをいわれたら・・・。どうなるかくらい・・・分かるだろう。・・・だから・・・その・・・今ここで私を殺せば・・・お前さんの人生はめちゃくちゃになってしまふ。・・・な。だから・・・こんなことは・・・止めてみないかい？」

「・・・。。。」

「分かってくれたかい。」

「それは・・・無理な事だ。・・・よく考えれば俺は今お前を殺せない。無料でゲルド砂漠に飛ばせ。」

「わ、分かった。」

「あとで殺しにくるからな。」

そう言つとりンクはもう一度湖に潜つて親子岩があつた下のほうにある陰りの鏡を取り、そしてゲルド砂漠へと飛ばされた。

旅立ち（後書き）

ゲームを全クリしたあとミドナに会えるようなゲームがあればなあ
あと思いながら捨てられた（?!）リンクがミドナを求める、人間
（?!）の愛を描いてみた一部です。

不便（前書き）

やっとゲルド砂漠のどこまでいきました。

不便

さて、これからが問題だ。ゲルド砂漠についたものの……。以前来たときは、ミドナと一緒にワープして一瞬の内に鏡の間へ行けたのだが今回はそういうわけにもいかない。獣姿にもなれない今はとても不便だ。リンクは人間の姿のままで処刑場に向かった。以前の倍かかって処刑場に着いた時には息を切らしていた。

「流石にこの俺でも……。ハアハア……。疲れちまうな。もう年か？」

しかし、リンクの顔に疲れたとは書かれていない。むしろワクワクしているような感じがする。トアル村でも影の世界に行く方法があると分かった時にはずっとニヤニヤしていた。その時には、イリアに「気持ち悪いわ。」

と言われ、マロには

「何にやついているんだ？あと10年もしてそんな顔をしていればただの変人としかわれないぞ。」

と言われてしまった。リンクはそんな事を思い出しながら砂漠の処刑場の中へ入っていった。

不便（後書き）

第2部です！！

これから（たぶん）まだまだ作っていくと思うのでよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7271t/>

ゼルダの伝説 トワイライトプリンセス

2011年10月9日04時54分発行